

若者世代の声から生まれた市民センターの取組



～寺岡市民センター主催「てらさんぽ」・桂市民センター主催「多世代間交流コンサート（仮）」～

寺岡に居住・通学している中高大生が集まり、寺岡の魅力若者の視点により発信できないか、また、講座を企画することで世代間交流が図れないか、ということを考え、ウォークラリー形式による地域散策を実施。写真やメモを取りながら、手作りにより一つの冊子にまとめた。また、桂市民センターでは、ジュニアリーダーとして活動していた若者が、若者と高齢者が交流し、相互理解ができる地域を目指して集まり、自分たちができることを考え、「多世代コンサート」開催に向け活動。職場体験に来た中学生も「楽しませたい」という思いの下、参画している。

<企画までの歩み>

寺岡・桂市民センターの職員が「若い世代を市民センターに！」をキーワードに、市民企画会議に関わる住民を誰にするかを検討。同じ時期に、昨年までジュニアリーダーとして各地域で活動していた若者が「これからも、地域とつながりたい」「育った地域で活動できることはないか」などと考えていた。この2者がみごとにマッチング。企画・講座をすることになった。



<解決しようと思った「地域課題」や「想いや願い」>
企画会議が進む中で見えたそれぞれの地域課題は

- ・地域の希薄化・少子高齢化に伴い、世代間での相互理解がされない。
- ・市民センターの認知度アップや、来館する年齢的偏りを減らしたい、若者にも魅力ある場所にしたい。
- ・魅力あふれる自分の地域を自分たちで発信していきたい。



多世代間交流をしよう！

- ・寺岡市民センター「てらさんぽ（参加者が撮影しながらウォークラリー形式で地域散策）→冊子を製作」
- ・桂市民センター「多世代間交流ロビーコンサート（仮）」



<企画を実施して感じた企画員や職員の成長や気づき、学びなど>

- ・市民センターでは自由な発言ができる。安心して取り組める。
- ・人（企画員・参加者共に）を集めることは難しい。
- ・自分たちができる企画の限界。でも！

市民センターだから可能になることも！

- ・自分たちの企画に、異なる世代の人も興味を示し「参加してみたい」ということを知る。
- ・学生も実現させたい企画がある！（学校だと制限があり、実施できないことがある。）
- ・泉区中央市民センターの社会教育主事が積極的に関わり、地区館支援に努めた。



様々な「人」を巻き込むことで

「学ぶ環境が膨らむ。地域課題の解決へもつながる！」

⇒ 企画員も職員も「楽しむ」ことが大事！！



事業の趣旨や目的の共有、事業進行の手法や学校との連携の提示など。

<今後地域で活動してみたいこと>

- ・次年度も機会があれば参加したい！
- ・若者だからこそできること、若者が楽しめる講座の実施！
- ・アンケートを実施して各世代のニーズを捉える。